整理番号	36－2－6

現況分析における顕著な変化についての説明書（教育／研究）

法人名　新潟大学　学部･研究科等名　教育学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目Ⅰ　教育の実施体制

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名　基本的組織の編成

平成 20 年度に，教員養成機能を総合的・抜本的に強化するため，組織編成の変更を行った。具体的には「学校教育課程」を「学校教員養成課程」に変更し，また「教育科学コース」を「学校教育コース」に変更した（資料）。また，学部名称も「教育人間科学部」から「教育学部」に改めた。これらにより，教員養成を中核とした学部であることを明確にし，目的意識を持った学生の確保を図ると同時に，主専攻プログラムの策定とあわせて，育成すべき資質を明確にした。また，これにともない，学校教育課程の学生定員を 40 名増やし，学校教員養成課程以外の課程の学生定員 50 名を減じた。

資料　教育人間科学部から教育学部への改組

改　組　前		改　組　後		
学校教育課程	180	学校教員養成課程	220	(40)
教育科学コース	45	学校教育コース	60	(15)
教科教育コース	135	教科教育コース	160	(25)
学習社会ネットワーク課程	70	学習社会ネットワーク課程	45	(△25)
生活環境科学課程	40	生活科学課程	15	(△25)
健康スポーツ科学課程	30	健康スポーツ科学課程	30	
芸術環境創造課程	60	芸術環境創造課程	60	
入学定員合計	380	入学定員合計	370	(△10)

○顕著な変化のあった観点名　教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制

学士課程において育成すべき能力を明確にするため，主専攻プログラムを策定した。主専攻プログラムの策定にあたったカリキュラム検討委員会において，主専攻プログラムの評価と改善のための方策について議論を深め，各専修においてミニＦＤを開催することが，各主専攻プログラムのなかに明記された。

以上により，平成 21 年度より，初等教育・中等教育・特別支援教育・学習社会ネットワーク・生活科学・芸術環境創造という７つの主専攻プログラムが実施されており，学部ＦＤも，それまで年１～３回程度であったものが，平成 20 年度においては５回開催されるに至っている。このうち「新潟大学における研究教育実習」には，学生も参加しており，学生の主体的な取り組みと結合したものとなった。

主専攻プログラムと学部ＦＤを組み合わせた教育内容，教育方法の改善のなかで，平成 20 年度には伊野義博教授が，平成 21 年度には有川宏幸准教授が，新潟大学学長教育賞を受賞するに至っている。

整理番号	36－2－7

現況分析における顕著な変化についての説明書（教育／研究）

法人名　新潟大学　学部･研究科等名　教育学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目Ⅱ　教育内容

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名　教育課程の編成

学校教員養成課程の質的向上を図るために，以下の改善を図った。

（１）　平成 21 年度に学校教員養成課程の主専攻プログラムを策定し，「学校教員としての力量の到達目標」を具体的に明示することにより，その到達に向けた意識化，動機付けを図った。これは，従来アドミッション・ポリシーに示してきた「学校の教員に必要な専門的能力を，理論と実践の両面から養う」という学校教員養成課程の特色を，さらに具体的かつ明確にしたものである。主専攻プログラムでは，学校教員養成課程の初等・中等・特別支援教育毎に，到達目標を①知識・理解，②当該分野の固有能力，③汎用的能力，の三点から具体的に示すように改善した。

（２）　「４年一貫の教育実習」を中軸に据えたコアカリキュラムについて，３年次主免教育実習に向けた教育内容の充実・改善を図った。「４年一貫の教育実習」カリキュラムでは，特に緊急の課題として浮かび上がり，重点的に取り組んだのが，３年次小学校主免教育実習のための「事前指導」内容の改善である（資料）。

平成 17 年度以前には，小学校主免教育実習参加者全員を対象に，各教科等の「授業づくりの観点・方法」について講義していた。この教育内容に対しては，偏りなく各教科等の「授業づくりの観点・方法」を教授・説明できるという利点がある。一方，①ほとんどの内容が授業事例の説明・講義中心である，②教科教育法等の講義内容との重複が多い，③３年次主免実習の直前指導の教育内容として相応しいのか検討が必要である，という問題点が指摘されていた。

この課題を踏まえて，主免教育実習の直前指導に相応しい内容となるように，全学生が学習指導案作成と模擬授業の演習に取り組み，授業の「構想・実践・評価」の基礎を体験的に学ぶ場として「事前指導」内容を再編した。平成 20，21 年度には６教科９コースに学生を振り分け，１コース当たり 15 名前後の少人数指導と演習を徹底するように改善した。

平成 21 年度の「事後指導」最終日に，「事前指導」の振り返りアンケートを実施した（回答数 100 名）。「指導案作成や模擬授業等は，実習に臨むにあたって有意義であったか」という質問に対しては，83%の学生が肯定的に評価しており，改善の成果が現れている。

資料　３年次小学校主免教育実習のための「事前指導」内容改善の取り組みの推移

年　度	３年次小学校主免教育実習のための「事前指導」内容の改善・充実の項目						
平成 17 年度以前	10 教科等について 90 分ずつ「授業づくりの観点・方法」を講義（全学生対象の一斉指導）						
平成 18 年度	国語(2)	算数(2)					指導案作成・模擬授業の演習(2 教科 4 ｺｰｽ)
平成 19 年度	国語(2)	算数(2)	社会(2)	道徳			指導案作成・模擬授業の演習（4 教科 7 ｺｰｽ）
平成 20.21 年度	国語(2)	算数(2)	社会(2)	道徳	音楽	図工	指導案作成・模擬授業の演習（6 教科 9 ｺｰｽ）

整理番号	36－2－8

現況分析における顕著な変化についての説明書（教育／研究）

法人名	新潟大学	学部･研究科等名	教育学部

1．分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目Ⅲ　教育方法

2．上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名　授業形態の組合せと学習指導法の工夫

学習社会ネットワーク課程では，国際交流を通した多文化共生マインド育成を目指して，平成 13 年度から北京師範大学との教育研究交流を開始した。その取組が評価され，平成 20 年度に文部科学省から教育 GP「大学教育の国際化加速プログラム（交流プログラム開発型）」に採択された。

多文化共生マインド育成のための授業形態・学習指導法の顕著な工夫・創意点は，次の２点にある。

（１）中国の学生との交流活動を媒介として，自文化理解と他文化理解を深めることで多文化共生マインドを育成するという，新しい授業方法をとっていることである。

（２）「比較制度論」「比較文化論」「多文化共生実習」の三つの授業科目を相互に関連づけ，①講義，②教材作成実習・演習，③中国の学生との異文化交流・対話体験活動，を一連のものとして具体的に組織していることである。

平成 20 年度には，本学部の学生が日本紹介の DVD 教材を作成し（自文化理解），北京師範大学珠海分校で授業を行ってフォーラムを開催し（自文化の紹介），中国の大学生と討論・交流した（他文化理解と自文化理解の深化）。平成 21 年度には，36 名の学生が参加し北京師範大学珠海分校において日中フォーラムを開催し，附属学校での日本民謡や日本の遊びを紹介する授業を実施し，中国の学生との交流・討論会を実施した。

これらの国際交流には顕著な成果が見られる。平成 20 年度の GP 活動に対して外部評価委員５名全員の総合評価は高く，また，参加学生のアンケート結果からは，「語学学習への意欲の高まり」「他国への関心（国際交流の意識）への高まり」「自国の文化・生活の理解の高まり」の順で，90%以上～75%以上の高い評価を示している。平成 21 年度に参加した学生の振り返りレポートには，「やはり中国の学生の学力は高いと改めて感じた。（中略）新潟大学という小さな範囲に留まらず広い視野を持ってこれから将来に向けて，物事を考えた方がいいのではと気付かされた。」と交流の成果が示されている。

○顕著な変化のあった観点名　主体的な学習を促す取組

新潟大学では，平成 18 年度から優れた本学教員の優れた授業・授業改善の取り組みに対して学長教育賞を設けている。主体的な学習を促す取組が評価され，平成 20 年度は「音楽科教育法（初等）」担当の伊野義博教授，平成 21 年度には「障害児心理学」担当の有川宏幸准教授が受賞した。

両者の授業改善の共通点は，学生の主体的学習を促すために体験的・模擬的活動を効果的に取り入れていることにある。伊野教授は，①音楽の総合的指導力を形成する手だてとして，教員による師範と学生によるその模倣活動の導入，②模擬授業，グループ学習，個人学習を通しての指導案作成という段階的な学習の到達目標の設定に基づく実践的授業を組織している。有川准教授は，①障害児の心理特性を理解するためにロールプレイ的な活動や事例紹介を通した学習，②実験形式のグループディスカッションを多く取り入れた双方向的授業，能動的学習に特徴がある。

学部教員の授業への取組にも改善が見られる。「学生による授業アンケート」によれば，「教員は課題を課すなど，学生自身が学習を進めるようサポートした」の項目について，「非常にあてはまる」「ややあてはまる」とする回答が，平成 19 年度の 60.9%から平成 21 年度には 65.8%に向上している。

整理番号	36－2－9

現況分析における顕著な変化についての説明書（教育／研究）

法人名	新潟大学	学部･研究科等名	教育学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

質の向上度の事例２「学習成果の実践的プロジェクト―西区 DE アート―」

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

「西区 DE アート」は,大学が新潟市西区を舞台として,住民の意識などを含めた地域の街おこしを,アートプロジェクトによって行おうとする活動である。学生が，この目的に寄与するような企画を立案し，そして実施する。具体的には，作品を街中に置いたり，パフォーマンスを行ったり，住民自身にも活動に参加してもらったりする。これまで芸術環境創造課程の授業科目「地域芸術実践」（２単位）として実施してきた。隔年実施のため，平成 20 年度は「西区 DE アートプチ」として小規模に実施し，平成 21 年度は本格実施されたが，以下の３点において顕著な変化があった。

①新潟市西区役所と連携することにより，参加者が飛躍的に増加し（30%の増加），のべ 2000 人規模となった。具体的には，学生，区役所，NPO「夢アートうちの」のメンバーが定期不定期に話し合いの場を持ち，企画について意見や情報を交換したり，参加者を増やすための方策を考えたりしながらプロジェクトを進めていった。

②学生による住民参加型の企画と運営により，町内会や商店を中心とした住民意識が高まり，住民参加が定着してきた。特に，平成 21 年度は，住民が単に観客として参加するだけでなく，今まで以上に作品の制作や設置に関われる企画を実施した。たとえば「シンカワホタル」という１万本の LED を新川に浮かべる企画では，学生が町内自治会一つ一つへ熱心に働きかけたことにより，13 の町内自治会から 400 人の人があかりづくりに参加した。子どもや大人向けワークショップも盛況で，住民の参加者が増加し，今後も続けてほしいというアンケートの回答が多く見られた。学生は，直接住民に参加を働きかけ,受け身の住民の意識を変化させた。このことは,学生の大きな自信となった。学生の自己肯定感が全般的に増し,積極的に社会に働きかけようとする姿勢が育ったというのが,教員が一致して感じていることである。

③それ以外の教育効果として，この活動を通して芸術を学ぶ意義を社会との関係で問い直すことができ,職業選択が多様化した。従来は印刷,デザイン関係がほとんどだったのが,建築や商品企画等に就職先が拡大している。

整理番号	36 － 2 - 10

現況分析における顕著な変化についての説明書（教育／研究）

法人名　新潟大学　学部･研究科等名　教育学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

質の向上度の事例３「新大なんでもスポーツプロジェクト」

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

「新大なんでもスポーツプロジェクト」は，地域住民の「豊かなスポーツライフ」の実現，学生のスポーツ実践指導力の向上をねらいとし，地域住民や子どもを対象として様々なスポーツ活動を行うもので（資料１），学生が主体となって企画・運営・指導を行い，教育的効果をあげている。

平成 18 年度から開始し，平成 21 年度で４回目となるが，受講者および学生参加者が飛躍的に増加している（資料２）。「市民の実態やニーズに応じた開講コースの内容・指導法の改善・工夫」および「地域の指導者との連携によるプログラム開発」の結果，受講者による評価が高くなり，参加者数の増加につながったと考える。

大学で学習した学生の専門知識・技能が，地域との連携活動により一層確かな指導実践力に結び付くことを実感するなどの教育的成果があった。それにより学生間に参加意欲が増し，結果として平成 21 年度には参加学生数の顕著な増加がみられた。

学生アンケートには「地域の人とスポーツの“楽しさ”“喜び”を知った」「多様な対象に対する指導方法，教材，接し方が必要なことを実感した」「大学の先生の指導から，心の通った表情，態度，場の和ませ方，的確な言葉かけ，ユーモアなどを学んだ」などの記述があった。

このように学生にとっては，地域および教員と連携した活動を通して「スポーツ本来の価値」，「スポーツ教育のあり方」を再認識し，さらに指導者としての資質向上の必要性を実体験できたことが教育効果といえる。

資料１　第４回（平成 21 年度）「新大なんでもスポーツプロジェクト」開講コース一覧

コース名	回数	コース名	回数
1 トキめき国体開会式県民パフォーマンス「リズム体操」出場教室	7	6 小・中学生のための卓球教室	3
		7 スイムクリニック	2
2 安心してスポーツを楽しむための環境づくり	1	8 ちびっこテニスの集い	3
3 体験加圧筋力トレーニング	3	9 集まれ！！ソフトボール広場	3
4 中高年のための楽しいリズム体操教室	5	10 健康・文化ウォークとルートマップの創造	3
5 五十嵐の森キャンプ場で遊ぼう	4	11 市民ランナー入門～フルマラソンが走れます～	4

資料２　「新大なんでもスポーツプロジェクト」参加者・指導者数

回（実施年度）	コース数	開講日数	受講者数	指導者数			
				教員	大学院生	学部学生	計
第１回（平成 18 年度）	1	4	32	1	4	0	5
第２回（平成 19 年度）	10	32	415	10	17	74	106
第３回（平成 20 年度）	8	29	289	8	10	97	119
第４回（平成 21 年度）	11	38	661	13	10	124	159